

特別科目

醍醐寺寄付講座

Samayaプロジェクト21 寄付講座

大学コンソーシアム京都提供科目

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52002200	醍醐寺講座・京の文化財	(長瀬 福男)			
単位	2	期別	秋学期	学年	1年次～

到達目標

1100年以上の歴史を持ち、京都を代表する寺院である真言宗醍醐派総本山醍醐寺が保持する日本でも有数の文化財を通して、京都に伝わる文化に興味を持つ。

キーワード

醍醐寺の所有する多彩な文化財を通して学ぶ。文化財を通して京都の歴史に触れる。

事前・事後学習

授業内容

まず、取り上げる文化財を保持する醍醐寺の概要を講義する。次に資料を配布し、各分野（絵画や彫刻、建造物等々）別に、成立過程や特色を解説する。その解説と同時に、各分野に共通する時代的特色を説明し、それぞれに時代的特色が文化財に及ぼした影響を知り、そして、逆にそれぞれの時代の文化を知ることにも目的とする。

授業は教室での講義形式が中心となるが、学外授業として醍醐寺や東寺における文化財見学も実施し、実際に文化財を目にしなが、教室の講義だけでは実感しにくい、文化財の魅力についても理解を深めるようにする。また、それら文化財の保存方法や伝承に不可欠な施設の概要についても講義する。さらに、文化財を生み出した儀礼にも触れる。

成績評価方法

講義への出席:60% 講義中の小テスト:20% 受講態度:20%

課題に対するフィードバック

授業計画

- 文化財の概要。文化財保護法が規定する文化財の範囲にとどまらない、京都の文化を表す様々な有形無形文化財について基本的説明を行う。
- 宗教だけでなく政治史にも深く関与する醍醐寺の概要を講義する。
- 真言宗の法流に関わる史料を中心に 三寶院流と報恩院流の流れを解説する。
- 醍醐寺の文献概要と作品解説 文化財を直接見るため学外授業とする。学外授業として醍醐寺霊宝館で実施するよてい。
- 醍醐寺の歴代座主の内、室町時代の満済と桃山時代の義演の史料を読む。
- 彫刻の素材と技法を簡単に説明する。加えて木造彫刻の技法である「一木造り」と「寄木造り」について、その発展過程と樹種についても開設する。
- 平安期の彫刻、醍醐寺の国宝薬師如来を中心に
- 鎌倉期の彫刻、快慶と醍醐寺
- 史跡・名勝への理解を三寶院庭園を例に解説する。学外授業として醍醐寺三寶院で実施する。
- 醍醐寺にある国宝建造物である五重塔や金堂も見学し、その文化財としての価値を学ぶ。学外授業として醍醐寺で実施する。
- 醍醐寺の絵画、平安期を中心に
- 醍醐寺の絵画、仏画 鎌倉から南北朝
- 醍醐寺の絵画、白描画像
- 醍醐寺所蔵の近世絵画を中心に、安土桃山～江戸期の絵画を学ぶ。
- 最後の授業で、これまで講義の対象であった文化財の保存に必要な修理について学ぶ。同時に修理に必要な材料、道具、技術者の育成についても考える。

テキストおよび参考文献等

《テキスト》なし。
《参考文献》なし。

その他

必要な資料はできるだけ配布する。画像等が多数の時は、教室内でスクリーンに映し出すことによって理解を深める。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52002300	醍醐寺講座・インド仏教思想史	(仲田 順英)			
単位	2	期別	春学期	学年	1年次～

到達目標

仏教誕生の地であるインドの歴史を仏教以前より学び始め、仏教誕生の要因を探り、さらに、仏教思想の流れを理解し、密教への思想展開を学ぶ。密教が日本への伝来課程において、現在の信仰形態へと発展する中で、その基本は常に「人間存在の探求」であることが理解する。「祈り」と「実践」の中で、いかに仏教の思想形態が確立していったかを学びながら、現代社会の中でいかに仏教思想が役立つかを探索していきたい。

キーワード

インダス文明、バラモン教、アーリア人、ヴェーダ聖典、ウッパニシャッド、梵我一如、沙門、シャカ族、ブッダ、初期仏教、四諦八正道、縁起説、無我論、仏教教団、サンガ、三蔵、六派哲学、アビダルマ、存在の分析、唯識、瑜伽行派、中観、空思想、如来蔵思想、仏教論理学、タントラ、曼荼羅、密教、空海、真言宗

事前・事後学習

事前に仏教の基礎を言葉だけでよいので学んでおいて欲しい。本として、手塚治虫氏の「ブッダ」や、司馬遼太郎氏の「空海の風景」など仏教関連のものを、一読しておいて欲しい。書店やコンビニにおいてある仏教や密教の入門本でもよいので、少しでも仏教思想に興味をもって講義をうけていただきたい。事後は、講義ないで探求本などを紹介するのでそれらを読誦し、より興味を深めてほしい。

授業内容

仏教は、釈尊が人の心の根本にある「苦」について思いを巡らせたことに始まり、まさに人間存在の探求こそが仏教の基本です。人間と自然の営みに心を寄せ、全ての命、事象の理りを説く縁起説を中心とした仏教の思想展開を学びます。そのスタートは、仏教誕生以前のインドにその思想の源流を求めながら、その展開を考察します。仏教を知る上で、まず、仏教を生み、育てたその土壌であるインドの歴史を学ぶことはとても重要です。仏教以前のインドの文明を中心にいかにして仏教が誕生したかを探ります。そして、その思想体系と釈尊の思想を考察し、原始仏教、部派仏教、大乘仏教とインドでの思想的展開をまとめながら、次に、仏教の東漸に沿って、チベット、中国、日本へと伝わる中での、地域性や時代性を加味しながら、如何にして密教が現在の形に発展していったかを考察していきます。そして、その基本には常に「人間」探求があることを認識し、現代における仏教思想の役割についても念頭におきながら、仏教思想について検証していきたいと思えます。

成績評価方法

出席:60% 小論文:20% 期末レポート:20%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 仏教誕生以前のインド文明:インダス文明
2. 仏教誕生以前のインド思想:バラモン教とヴェーダ思想
3. 釈尊誕生:仏教の開祖、釈尊誕生時のインドについて学ぶ、釈尊の生涯をたどる
4. 人間釈尊の思想:なぜ釈尊は出家をして、さとりを求めたのか
5. 初期仏教の思想① 釈尊の根本思想
6. 初期仏教の思想② 原始仏教の思想体系
7. 教団の成立と部派仏教① 仏教教団の成立
8. 教団の成立と部派仏教② 部派の成立とその思想
9. 教団の成立と部派仏教③ アビダルマの思想とその発展
10. 大乘仏教の成立 仏塔崇拜に始まる在家仏教の誕生
11. 大乘仏教の思想体系① 「空」の思想体系の成立と発展
12. 大乘仏教の思想体系② 大乘仏教思想の発展、インド哲学との論争
13. 密教史相の萌芽 密教の源流を探る
14. 仏法東漸 大乘仏教思想と展開 チベット、中国そして日本へ
15. 真言密教の成立 弘法大師空海による日本への密教の伝搬について

テキストおよび参考文献等

《テキスト》その都度プリントを用意します
《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)				
b52003100	マンダラと梵字5A	(今井 淨圓, 児玉 義隆)				
単位	2	期別	春学期	学年	1年次～	

到達目標

- ①梵字を正しい筆法で書くことができる。
- ②梵字について関心を持ち、自ら進んでその内容を理解して、人に伝えることができる。

キーワード

密教、空海、入唐八家、梵字、マンダラ、字母表、摩多体文、朴筆の運筆規則

事前・事後学習

あらかじめ、授業で扱う人名・地名・仏教要語などを辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめておくこと。授業時間以外でも、筆を持って実修に励むこと。

授業内容

梵字は弘法大師空海によって、わが国にもたらされて以降、卒塔婆や石塔、あるいはマンダラなどのさまざまな形で伝承されてきた。

本講義では、古代インドの文字である梵字の歴史やその書き方、読み方の基本を学ぶ。本年は特に観法に用いられる本尊について、種々の作例をあげながら、その教理的な背景を解説する。さらに受講者自身にも梵字の観想図を筆写してもらう。春学期は八字文殊種子曼荼羅を梵字で描く。

授業においては、梵字の書き方を児玉が、作例に関する講義を今井が担当して行う。昨年までに「マンダラと梵字」を受講したことがある方も、本年度の講義を受講することができる。筆や教科書を持っている受講生は、材料費だけの負担になる。

成績評価方法

平常点:30%(主に出席状況によって評価します。ただし、遅刻等の受講態度不良は減点の理由になります)定期試験:70%(作品提出により評価します)

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|--|---|
| <p>1. 【講義】(児玉義隆 担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 梵字の歴史について 2. 摩多(母音)体文(子音)の解説 3. 摩多体文の書法1 4. 摩多体文の書法2 5. 切継(きりつぎ)字の書法(子音字の結合) 6～9. この観想図に用いられる種子の書き方 10～12. 作品制作とまとめ | <p>2. 【講義】(今井淨圓 担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 密教の歴史 2. マンダラ的重要性 3. さまざまなマンダラについて 4. 八字文殊種子曼荼羅について |
|--|---|

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年

《参考文献》 児玉義隆『梵字で見る密教 その教え・意味・書き方』大法輪閣 2002年
 児玉義隆『梵字の書法—真言密教・ほとけの文字—』大法輪閣 2005年
 種智院大学『新梵字大鑑』法蔵館 2015年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52003200	マンダラと梵字5B	(今井 淨圓, 児玉 義隆)			
単位	2	期別	秋学期	学年	1年次～

到達目標

- ①梵字を正しい筆法で書くことができる。
- ②梵字について関心を持ち、自ら進んでその内容を理解して、人に伝えることができる。

キーワード

梵字、密教、マンダラ、字母表、摩多体文、朴筆の運筆規則、別尊マンダラ

事前・事後学習

あらかじめ、授業で扱う人名・地名・仏教要語などを辞書で調べ、予習したことをノートにまとめること。授業時間以外にも、筆を持って実修に励むこと。

授業内容

梵字とは悉曇文字のことで悉曇は梵語の「シッドム」を漢字で音写したもので、シッド(成就する)から、「成就吉祥あれ」の意味に解されている。4世紀後半にインドより仏教とともに中国に伝承された当時の梵字は、書体及び字母を悉曇として、梵語文法や語句解釈などを梵音とっていた。わが国へ悉曇梵語が伝来してからは、転じて梵字の書体だけではなく、広く梵語の書法、読法、文法など、すべてを内包した総称として、「悉曇」と呼ばれるようになった。悉曇を形成する基礎的な文字が梵字である。本講義ではインドに始まる梵字の歴史やその書き方、読み方の基本を学ぶ。とくに梵字で描かれたマンダラの作例をあげながら、その教理的な背景を解説し、さらに受講者自身にも作品を作成してもらう。授業においては、梵字の書き方を児玉が、マンダラに関する講義を今井が担当して行う。また春学期にマンダラと梵字4Aを受講していなくても、梵字の書き方の復習から始めるので、秋学期からの受講が可能である。

成績評価方法

平常点:30%(主に出席状況によって評価する。ただし、遅刻等の受講態度不良は減点の理由になる)

定期試験:70%(作品提出により評価する)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートや作品についてコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収してから、解説を行います。梵字実修に入れば、それぞれの作品を添削して指導します。

授業計画

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 【講義】(児玉義隆 担当) <ol style="list-style-type: none"> 1. 梵字の歴史について 2. 摩多(母音)体文(子音)の解説 3. 摩多体文の書法1 4. 摩多体文の書法2 5. 切継字の書法(子音字の結合) 6～9. この陀羅尼に用いられる種子の書き方 10～12. 作品制作とまとめ | <ol style="list-style-type: none"> 2. 【講義】(今井淨圓 担当) <ol style="list-style-type: none"> 1. 密教の歴史 2. さまざまなマンダラについて 3. 作画する別尊マンダラについて |
|--|---|

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年

《参考文献》 児玉義隆『梵字で見る密教—その教え・意味・書き方—』大法輪閣 2002年
 児玉義隆『梵字の書法—真言密教・ほとけの文字—』大法輪閣 2005年
 種智院大学『新梵字大鑑』法蔵館 2015年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)				
b52005100	日本密教学序説～空海と最澄	(北尾 隆心)				
単位	2	期別	春学期	学年	1年次～	

到達目標

同時期に中国へ渡った空海と最澄が得た密教とは何か、ということを確認すると共に、両者がどのように日本密教(真言密教・天台密教)として確立していったか、ということを理解する。

キーワード

空海、最澄、真言密教、天台密教

事前・事後学習

ノートを作成し、テーマに基づき、授業に必要と思うことを予習し、書き込む。また、授業で得たものを書き込み、まとめる。予習時間2時間30分、復習2時間を取ってもらうことが望ましい。なお、ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

日本密教を考える上で外すことができないのが、真言宗を開いた空海(774～835)と天台宗を開いた最澄(767～822)であります。同時期に中国に渡ったにも関わらず、空海と最澄が得た密教は全く相容れない密教でありました。確かに相容れない密教ではありましたが、今日、最澄の得た密教については全くの誤解が生じております。それ故にもう一度、空海の得た密教と最澄の得た密教を正確に理解することの必要性が生じております。そして、その上で空海と最澄それぞれがどのように自身の得た密教を育み、日本密教(真言密教・天台密教)へと進化させてインドや中国とは違う日本密教として確立させて行ったのか、ということを理解することを目的とし、目標とします。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 講義ノートの作成方法
密教とは何か | 9. 最澄の生涯 |
| 2. 密教の歴史①インド密教 | 10. 最澄が中国で得た密教 |
| 3. 密教の歴史②中国密教 | 11. 最澄の密教 |
| 4. 密教の歴史③日本密教 | 12. 天台密教について |
| 5. 空海の生涯 | 13. 空海と最澄 |
| 6. 空海が中国で得た密教 | 14. 東寺見学会 |
| 7. 空海の密教①即身成仏思想 | 15. 智積院見学 |
| 8. 空海の密教②両部思想 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業中、適宜、プリント配布。

《参考文献》 適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b52005200	密教瞑想入門 ～真言宗の実践行法と密教瞑想の意義、そして、阿字観の方法論と実習				(北尾 隆心)
単位	2	期別	秋学期	学年	1年次～

到達目標

真言密教の修行方法(実践行法)が密教瞑想であることを理解し、密教瞑想の基本である阿字観を実際に体感する。

キーワード

事相、実践行法、三摩地法、呼吸法、阿字観

事前・事後学習

実習ノートを作成し、事前に密教瞑想の実習を行い、そこで得た感想等を書き込む。また、授業で得たものを書き込み、事後学習として密教瞑想を行い、そこで得たことの感想を書き込む。予習時間30分、復習1時間を取ってもらうことが望ましい。なお、実習ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

真言密教の修行方法(実践行法)はすべて密教瞑想を基盤であるということを明確に講じた上で、この密教瞑想を実際に体感することを目的とし、そして、最もシンプルでありながら密教瞑想の集大成として創意工夫されて構築された「阿字観」を行うことにより、真言密教を理解し、そして、仏そのものと成ることを目的とし、目標とします。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 実習ノートの作成方法
真言密教の基礎知識 | 9. 阿字観の実習① 阿字観の実習確認 |
| 2. 釈迦の生涯から見えてくるもの | 10. 阿字観の実習② 実際の問題点 |
| 3. 釈迦の生涯と密教瞑想 | 11. 阿字観本尊の立体化
第二段階の阿字観の方法論と実習 |
| 4. 真言密教の実践行法と密教瞑想 | 12. 第二段階の阿字観の実習 |
| 5. 密教瞑想の意義と密教の呼吸法 | 13. 広観・斂観について
第三段階の阿字観の実習 |
| 6. 阿字観の系譜(金剛界の阿字観・胎藏界の阿字観)と本尊について | 14. 第三段階の阿字観の実習の問題点 |
| 7. 金剛界の阿字観について | 15. 阿字観の目指すところ |
| 8. 阿字観を実習するための方法解説 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 テキストについては授業にて指示します。
適宜、プリント配布。

《参考文献》 北尾隆心著『密教瞑想入門－阿字観の原典を読む』(大法輪閣)。
適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52006700	チベット仏典講読～ツォンカパ著『入中論広釈 “密意明解”』を読む	(平岡 宏一)			
単位	2	期別	春学期	学年	2年次～

到達目標

慈悲と大悲の違い、菩提心の意味など大乘仏教の基本概念を説明できる

キーワード

慈悲、大悲、空性、布施

事前・事後学習

復習を必ずしなければならない

授業内容

ツォンカパが遷化の前年1418年に著した『入中論広釈“密意明解”』を読む。
講師の平岡は、この著書をインドのギュメ密教学問寺に留学中(1988～1989)に読む機会を得た。また、日本に帰国後、東洋文庫に在籍しておられたデブン寺ゴマン学堂第七十五世座主テンパ・ゲルツェン師(1932～2012)に就き、1992年から1997年までの五年間を掛けて全体を伝授頂いた。密教を理解するためには、波羅蜜乗の考え方を学ぶことは重要である。
今回の講義では先生方の伝授に基づき、ツォンカパの『入中論』の註釈を冒頭より和訳してわかりやすく解説する。

成績評価方法

期末筆記試験により厳正に評価する

課題に対するフィードバック

筆記試験60分実施後、30分を用いて解説を行う

授業計画

1. 『入中論』とツォンカパの成仏観 名前の意味
2. 翻訳のための礼拝 大悲を讃嘆すること
3. 菩薩を讃嘆する理由
4. 菩提心を発心すること
5. 有情への慈悲
6. 無縁の慈悲など
7. 菩薩道の修行法 1
8. 菩薩道の修行法 2
9. 声聞や独覚にも空性を理解することが出来ること
10. 声聞や独覚にも空性を理解することが出来る根拠
11. 聖者の功德
12. 第一地 歓喜地について 1
13. 歓喜地について 2
14. 布施波羅蜜
15. 布施の功德

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業毎に和訳のプリントを用意する
《参考文献》 無し

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52008100	スタディツアー 南インド - ドラヴィダ文化、南天鉄塔伝説	(松本 峰哲)			
単位	2	期別	秋集中	学年	1年次～

到達目標

インドの宗教・文化に関する事前学習の知識を元に、インド現地にてフィールドワークを行うことができる。

キーワード

インド文化、密教文化

事前・事後学習

事前講義で訪問先について詳しくお話ししますので、講義後は自身でもしっかりと復習をし、現地では何を学ぶか、自身の目標をしっかりと立ててインドでのフィールドワークに参加してください。

授業内容

仏教は元々インド発祥の宗教であり、特に日本の密教の元となった7世紀ごろの中期インド密教はヒンドゥー教やインドの様々な土着信仰の影響を強く受けています。したがって密教を深く理解するためには仏教を含めたインドの宗教・文化を理解することが重要です。本講座では事前学習と共に実際にインドの聖地・博物館等を訪れ、インドの宗教・文化を直接体験してもらいます。事前学習は集中講義として、集中講義期間中(2023年2月上旬の2日間)に実施します。本年度は訪問先として南インドを予定していますが、新型コロナウイルス感染の状況や受講者数によっては休講(渡航取りやめ)となる場合があるので注意して下さい。なお詳しいツアー内容(見学地・日程・費用等)については事前説明会を開催しますので、受講希望者は必ず参加して下さい。

成績評価方法

事前授業及び現地学習での参加態度:60%
帰国後のレポート提出:40%

課題に対するフィードバック

レポートは後日コメントを付けて返却します。

授業計画

- | | |
|-----------------------------|----------|
| 1. イントロダクション ～スタディーツアー概要説明～ | 9. 現地学習 |
| 2. 密教とインド文化 | 10. 現地学習 |
| 3. インドの仏教以外の宗教 | 11. 現地学習 |
| 4. インドでの見学ポイント | 12. 現地学習 |
| 5. 事前学習のまとめと渡航前注意事項の確認 | 13. 現地学習 |
| 6. 現地学習 | 14. 現地学習 |
| 7. 現地学習 | 15. 現地学習 |
| 8. 現地学習 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特にありません
《参考文献》 事前学習にて適宜紹介します。

その他

例年ツアー日程は7日間、費用は30万前後です。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52009300	修験学実践講座(吉野・大峰峯入修行体験)	(田中 利典)			
単 位	2	期 別	春集中	学 年	1年次～

到達目標

修験道の実践と概要を学び、日本の宗教・文化について理解を深める

キーワード

修験道の実践と概要。日本の宗教・文化の理解

事前・事後学習

事前：参考文献を熟読しておくこと。授業で扱うテーマを参照し自分なりの課題をノートにまとめること。事後：授業後に小レポート(300字程度)を作成し、次回の授業で提出すること。実践講義では感想や体験レポートを提出すること(800～1000字程度)。

授業内容

日本古来の山岳信仰に、神道や外来の仏教(特に密教)、道教などが習合して成立した我が国固有の民俗宗教が修験道である。修験とは「実修実験」「修行得験」という意味を指し、実践を重んじる民衆宗教でもある。その概要を学ぶとともに、夏休み中に実習講義として、奈良の吉野・大峰山での登山(峯入り)修行を実施する。吉野・大峰山は、日本を代表する修験道の聖地で、山に入って修行することを峯入(みねいり)修行というのがその根本聖地である。修験道は聖なる山岳を舞台とする大自然の宗教であり、神仏習合を基盤とし、密教とも深く関わりつつ展開してきた、日本の民俗宗教の真髄ともいえる。その修験道について、講義形式による座学と合わせて、実際の峯入り修行の体験を通じて、日本の宗教文化について理解を深める。宗教は頭だけで理解するのではなく、身体性を持つ体験を通じて体感・体得することが大切である。実習講義は8月中の2泊3日の行程で実施する(今年度は8/19～8/21で実施予定…実施時の状況に応じて変更)。
①まず事前学習として修験道の概要について講義を行い、②つづいて登山修行を行い、③修行後に体験で得たことの総括討議を行い、④最後にレポートにまとめて提出する。1)昨年「修験学実践講座2021」を履修した者も重ねて履修可能である。2)今年は大峯峯中の峯入ルートを計画している。場所は未定。3)実習費：4～5万円程度。4)受講人数：10名程度以上。一定数に満たない場合は開講しない場合もあるので、卒業所要単位とは別途(※女性で履修を希望する者は単位登録前に教務課に事前相談のこと)の履修を考慮するのが望ましい。5)学生以外に一般からの参加者も募集する。

成績評価方法

事前学習(座学) 50%、実習(峯入修行) 30%、総括と事後レポート 20%

課題に対するフィードバック

フィードバックとしてレポートにコメントを残す。最終事業後に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 事前学習 修験道の概要①プロローグ | 9. 体験実習 峯入り修行 |
| 2. 事前学習 修験道の概要②概説(1) | 10. 体験実習 峯入り修行 |
| 3. 事前学習 修験道の概要③概説(2) | 11. 体験実習 峯入り修行 |
| 4. 事前学習 修験道の概要④ | 12. 体験実習 峯入り修行 |
| 5. 事前学習 開祖役行者と蔵玉権現 | 13. 体験実習 峯入り修行 |
| 6. 事前学習 修験道の教義と儀礼 | 14. 体験実習 峯入り修行 |
| 7. 事前学習 まとめ 修験道の歴史と未来 | 15. 総括討議 |
| 8. 体験実習 峯入り修行 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》なし。その都度資料配付。

《参考文献》田中利典『修験道入門 - 体を使って心をおさめる』集英社(新書)

2014年田中利典・正木晃共著『はじめての修験道』春秋社

2004年田中利典・宮城泰年・内山節共著『修験道という生き方』新潮社(選書)2019年

その他

過年度の「修験学実践講座」を履修した者も重ねて履修可能である。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52010100	ネパール仏教講座	(スダン シャキヤ)			
単位	2	期別	秋集中	学年	1年次～

到達目標

サンクリットを中心とするネパール仏教の思想・儀礼・文化の概観

キーワード

釈迦生誕地、ネパール仏教、ネワール、インド仏教、九法、サンスクリット写本、クマリ、サンガ、グティ(講)

事前・事後学習

配布資料を参考に講義内容を復習すること

授業内容

本講義では、ネパールの仏教を知るための入り口である。釈迦生誕地、ルンビニーは現在ネパールの南、インドと接しており、首都カトマンズから約400キロの距離である。カトマンズ盆地には、400に登る仏教寺院が点在し、ネワール民族が大乗仏教・密教を実践している。彼らはチベット・ビルマ語族に属するネワール語を母語としているため、その仏教を「ネワール仏教」と称する。ネパール仏教は13世紀初頭にインドで滅んだサンスクリット語を中心とするインド仏教・密教を継承する唯一の仏教であり、且つネパールを代表する仏教でもあるために「ネパール仏教」とも呼ばれている。ネパール仏教の特徴は、今日でも経典、儀礼次第など全てがサンスクリット語で行われており、陀羅尼の読誦、曼荼羅儀軌の実践も行われ、それに基づいた宗教文化も定着している。その他、現在のネパールではチベット仏教と共に近年ビルマやスリランカから再流入したテラヴァダ仏教も普及しているがそれについても学ぶ。

成績評価方法

平常点 50% レポート 50%

課題に対するフィードバック

講義後に感想文を書いてもらい、それに対してコメント返す。

授業計画

1. はじめに ネパールとは 歴史の概要
2. ネパールの宗教と民族
3. ルンビニー 釈迦生誕地の現状
4. 仏教の起原と伝説 インド仏教の受容と変容
5. ネパールに現存する仏教
6. ネパール仏教の寺院と所属するものたち
7. ネパール仏教の思想的な基盤 経典、儀礼次第
8. 三宝帰依を示す三種の曼荼羅と九法
9. ネパール仏教と祭り
10. ネパール 現存のサンスクリット写本と仏教研究
11. ネパール仏教の造型文化 仏像・絵画の伝統技法
12. ネパール仏教の特有の図像と思想的背景 三宝曼荼羅由来の三尊形式、108観音、帰郷図
13. 生き神クマリ信仰 ネパールの宗教・文化の共存のシンボル
14. 日本とネパールの交渉史
15. まとめ 仏教研究発展におけるネパール仏教役割

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。

《参考文献》 田中公明・吉崎一美. 1998.『ネパール仏教』春秋社、スダン・シャキヤ。
2015.「ネパール仏教における三宝帰依と三種のマンガラー梵語及び梵語・ネワール語混成資料を中心に」『密教学』第51号pp. 211-227

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b52011100:	真言密教の経典を読む (一菩提心思想を中心として一)	(大塚 伸夫)			
単位	2	期別	秋集中	学年	1年次～

到達目標

受講生が密教経典の菩提心思想を把握し、かつ他者にも説明できる。

キーワード

大日経、金剛頂経、理趣経、菩提心、如来蔵

事前・事後学習

【事前学習】

掲載済みの密教経典の参考書を用いて予備知識を身につける。2時間の事前学習が望ましい。

【事後学習】

受講後に講義した概要について小レポートを提出してほしい。2時間の事後学習が望ましい。

授業内容

密教経典とくに大日経・金剛頂経・理趣経に説かれる菩提心思想について講義する。

成績評価方法

授業の取り組み20%、小レポート30%、期末レポート50%を基準にして総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして、小レポートにコメントを返します。

授業計画

- 『大日経』配布資料の[1~2]法身説法の構造
- 『大日経』配布資料の[3]胎蔵法の真言瑜伽観法と胎蔵曼荼羅の出生
- 『大日経』配布資料の[4]菩提と如実知自心
- 『大日経』配布資料の[5]如実知自心と心品転昇過程
- 『大日経』配布資料の[6]心品転昇過程と曼荼羅諸尊、[7]曼荼羅諸尊の五種三昧道
- 『金剛頂経』配布資料の[1]『金剛頂経』の基礎知識、[2]教主・毘盧遮那如来
- 『金剛頂経』配布資料の[2]大毘盧遮那
- 『金剛頂経』配布資料の[3]本有本覚と五相成身観の前半
- 『金剛頂経』配布資料の[3]本有本覚と五相成身観の後半
- 『金剛頂経』配布資料の[4]一切如来たちの加持と金剛界如来の成道
- 『理趣経』配布資料の[1]『理趣経』の経題名の解説
- 『理趣経』配布資料の[2]『理趣経』類本、[3]『理趣経』の章段構成とその要点
- 『理趣経』配布資料の[4]序分(縁起分)の構造
- 『理趣経』配布資料の[5]初段「十七清浄句」の示す思想(煩惱即菩提)
- 『理趣経』配布資料の[8]第十一段四種本有性、および三経典における如来蔵思想の密教的展開についての総括

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講義で扱うテキストや補助資料については、講義の際に教員が用意する。

《参考文献》・頼富本宏『大日経入門』(大法輪閣、2000年)
 ・頼富本宏『金剛頂経入門』(大法輪閣、2005年)
 ・松長有慶『理趣経講讃』(大法輪閣、2006年)

その他